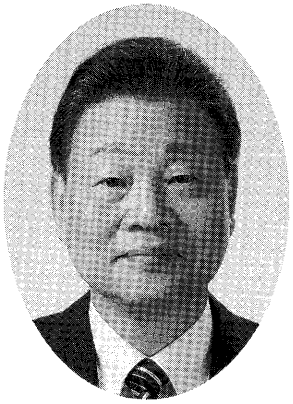
令和5年度高知県歯科医師会学会

- 令和６年３月１０日（日）午前９時00分～
- 総合あんしんセンター3階　大会議室〔メイン会場〕
- 三原村農業構造改善センター　　〔中継会場〕

「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」　戸原　玄 先生
「訪問歯科　私の視点」
　高知県歯科医師会 いとう歯科院長　伊藤 充孝 先生
「舌接触補助床（PAP）の臨床
　（日本顎顔面補綴学会 地域医療支援セミナー）」　猪原　健 先生

高知県歯科医師会

御　挨　拶



高知県歯科医師会会長

野　村　和　男

早春の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年５月の新型コロナ５類移行以来、少しずつ日常が戻って来ました。まだまだ完全に安心とまではいえないものの、街や人の流れにも活気が戻って来たように思われます。第四期野村執行部も、コロナ禍での事業の停滞を取り戻すべく、役員・事務局一丸となって、一層の改革に邁進していく所存であります。

さて、令和６年度の診療報酬改定は、全体で0.88％のアップとなりました。そのうち、医療に活用できる改定財源は＋0.46％であり、歯科への配分率は＋0.57％でした。そのうち0.28％程度は、40歳未満の勤務歯科医師や、事務職員、歯科技工所等で従事する者等の賃上げに資する措置分が含まれております。国の厳しい財政状況の中で一定の財源は確保できたものの、薬価は－1.00％であり、物価高騰・スタッフの賃金上昇への対応としては決して十分なものとはいえません。とはいうものの、限られた原資の中で如何に先生方の稼働率を向上していくか、対策は講じていきたいと思います。

今回の県歯学会は、摂食嚥下をテーマに３人の先生をお招きいたしました。まず戸原先生は、今が旬の摂食嚥下の大家です。令和４年度日歯生涯研修セミナーでの楽しくて分かりやすい講演を覚えていらっしゃる先生も多いかと思います。高知市会員の伊藤先生は、自院を休診して国内留学して研鑽し、訪問診療の現場に還元しておられます。猪原先生には有効性が高いにもかかわらず未だあまり馴染みのない舌接触補助床（PAP）について、わかりやすく解説して頂けると思います。今後の歯科医療提供体制の政策として、訪問診療・地域包括ケア・多職種連携等が重視されつつあるなかで、今回の３先生の御講演が、これからの歯科界の方向性を示し、我々にとって貴重な道しるべとなるかと思います。会員の先生方におかれましては、是非ともお誘い合わせのうえ多数の御聴講を賜り、今後の臨床にお役立て頂きますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、戸原先生・猪原先生・伊藤先生には御多忙中にもかかわらず本会会場にお越し頂き、御講演を賜りますことを、会員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

プログラム

日時　令和６年３月１０日（日）

会場　総合あんしんセンター3階　大会議室〔メイン会場〕
　　三原村農業構造改善センター　　〔中継会場〕

司会　高知県歯科医師会学術部副部長

開　会　9：00　　高知県歯科医師会学術部部長
西　岡　政　道

挨　拶　　高知県歯科医師会会長
野　村　和　男

講　演１　9：10 ～ 11：10

演　題　摂食嚥下障害の評価と訓練の実際
講　師　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻
老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野教授
戸原　玄 先生

講　演２　11：15 ～ 11：45

演　題　訪問歯科　私の視点
講　師　高知県歯科医師会　いとう歯科院長　伊藤 充孝 先生

講　演３　11：50 ～ 12：35

演　題　舌接触補助床（PAP）の臨床（日本顎顔面補綴学会 地域医療支援セミナー）
講　師　医療法人社団 敬崇会
猪原[食べる]総合歯科医療クリニック院長
猪原　健 先生

シンポジウム・質疑応答

閉　会　13：10　　高知県歯科医師会副会長
依　岡　弘　明

■ 時間厳守で開始致しますので、よろしくお願いいたします。
■ この学会は特別研修に相当します。
■ この学会は撮影は禁止となっております。

講　演

プロフィール

戸　原　　玄（とはら　はるか）　先生

略　歴

1997年	東京医科歯科大学歯学部歯学科　卒業
1998-2002年	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系専攻高齢者歯科学分野大学院
1999-2000年	藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座研究生
2001-2002年	ジョンズホプキンス大学医学部リハビリテーション科研究生
2003-2004年	東京医科歯科大学歯学部付属病院高齢者歯科　医員
2005-2007年	東京医科歯科大学歯学部付属病院高齢者歯科　助手 東京医科歯科大学歯学部付属病院摂食リハビリテーション外来　外来医長
2008-2013年	日本大学歯学部摂食機能療法学講座　准教授
2013-2019年	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野　准教授
2020年－	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野　教授

摂食嚥下障害の評価と訓練の実際

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻
老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野　教授
戸　原　　玄

抄　録

低栄養、誤嚥性肺炎などを引き起こす摂食嚥下障害は高齢者にとってコモンな症状であるといえる。特に入院中に嚥下障害が治りきらずに在宅へ移行すると、その先で何も行われなくなる、もしくは退院時の状態が永続的なものとされて対応を続けられるという現状がある。極端な表現をすると、食べる機能についてのリハビリテーションが中途なまま退院を余儀なくされているのに対し、退院後、“ただそのまま”になっている患者が多いのである。

特に今後の日本においては訪問診療が必要とされる場面、地域が増加することは想像にたやすいが、そういった場面で食べることを評価してリハビリの場面に乗せることが重要である。視点としては地域リハビリテーションといえる。我々の過去の調査によると、食べる機能があるのにもかかわらず経管栄養のままでいる患者や、食べる機能が低下しているのにもかかわらず普通の食事を摂取している患者が多かった。摂食・嚥下リハビリテーションを考える際の視点としては、“訓練”という目線ではなく、退院後安定した生活を送るにあたって栄養摂取方法を見直すという視点が重要なのであり、改めて地域での連携が重要になる。

また、我々の近年の研究結果から口を大きく開けることが嚥下機能の改善に役立つこと、女性より男性の方が嚥下機能が低下しやすいこと、体幹を保つことが嚥下機能の維持に役立つこと、経口摂取は腸内細菌にもよい影響を及ぼすことなど様々な知見が得られているのでそれを紹介したい。さらに胃瘻に関連する調査、摂食嚥下関連医療資源マップ（http://www.swallowing.link/）、オンライン診療、さらには声を取り戻すための口腔内装置なども紹介しつつ経口摂取を支えるためにできることを考えてみたい。

【原　著】

1. Yanagida R, Tohara H.et a, : Jaw-Opening Force as a Useful Index for Dysphagia: A Cross-Sectional and Multi-Institutional Study. Gerontology, 2022
2. Ishii M, Tohara H. et al: Higher Activity and Quality of Life Correlates with Swallowing Function in Older Adults with Low Activities of Daily Living. Gerontology, 2021
3. Hasegawa S, Tohara H.: et al Jaw-retraction exercise increases anterior hyoid excursion during swallowing in older adults with mild dysphagia., Gerodontology, 2021
4. Yoshimi K, Tohara H.et al: Effects of Oral Management on Elderly Patients with Pneumonia., J Nutr Health Aging, 2021
5. Takano S, Tohara H, et al: Effect of isometric exercises on the masseter muscle in older adults with missing dentition: a randomized controlled trial., Sci Rep, 2021

【受　賞】

1. 訪問診療での歯科臨床　在宅歯科医療をさらに高めるClinical Questions
   戸原玄、中川量晴編集　2021年老年歯科医学会賞
2. 歯学研究奨励賞　東京医科歯科大学　2018年度
3. 東京医科歯科大学医療チーム功労賞　東京医科歯科大学　2015、2017年
4. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会論文賞　2009年度
5. 老年歯科医学会雑誌　2008、2009、2014年度　優秀論文賞
6. 第13、16、17、18、24回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会書学術大会　奨励賞

【理　事】

PDN理事
日本老年歯科医学会理事（ガイドライン委員会委員長）
日本摂食嚥下リハビリテーション学会理事（表彰委員会委員長・教育委員）
在宅支援歯科診療連絡会理事
日本補綴学会東京支部理事
日本神経摂食嚥下・栄養学会理事（編集委員）
日本口腔リハビリテーション学会理事
口腔病学会理事

【認定医・専門医】

日本摂食嚥下リハ学会認定士
日本老年歯科医学会認定医および認定医指導医
日本老年歯科医学会専門医および専門医指導医

講　演

プロフィール

伊藤充孝（いとうみつたか）先生

略　歴

1998年　新潟大学歯学部　卒業
2005年　いとう歯科開設
2020年　大阪大学顎口腔機能治療部医員

訪問歯科　私の視点

高知県歯科医師会　いとう歯科　院長
伊　藤　充　孝

抄　録

高齢者の訪問診療では歯科的主訴以外に、多疾患併存、ADL 低下、低栄養、多剤併用等の対応が必要なことも多く、医学、薬学、栄養学などの知識が診療の助けになります。事前に患者さんの資料に目を通し、主訴、現病歴、既往歴、処方薬等を詳細に確認します。主訴が患者さん本人にあるとも限らず、家族さんが介護上で抱える不安の改善を優先することもあります。

摂食嚥下障害の症例では、診察を通じた病態把握と、食支援に直結する予後予測とを欠くことはできません。身体所見、神経所見を取り、必要に応じてミールラウンドや嚥下内視鏡検査等を行います。誤嚥を許容することもありますが、その場合は環境設定やポジショニング、食形態や食事介助の評価、口腔ケアや訓練の処方等で誤嚥性肺炎発症リスクの軽減を図ります。病態と予後の十分な説明を行い、患者さん及び家族さんと共通の理解基盤を築くことも大変重要だと思います。

歯科の特殊性・専門性を活かした食支援は、超高齢社会で多くの患者さんを助けられることを疑いません。拙劣でありますが私なりに実践している訪問診療を発表し、先生方の臨床の一助になることを願っております。

講　演

プロフィール

いの　はら　けん
猪　原　　健　先生

略　歴

2005年	東京医科歯科大学歯学部 卒業
2009年	東京医科歯科大学大学院 顎顔面補綴学分野 修了(歯学博士)
2010年	日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 非常勤医員
2010-2011年	カナダ・アルバータ大学リハビリテーション学部留学
2015年	脳神経センター大田記念病院 歯科非常勤医(兼務・現職)
2020年	敬崇会 猪原歯科・リハビリテーション科 (現・猪原［食べる］総合歯科医療クリニック)理事長
2021年	グロービス経営大学院 修了(MBA経営学修士(専門職))

舌接触補助床(PAP)の臨床(日本顎顔面補綴学会 地域医療支援セミナー)

医療法人社団 敬崇会　猪原[食べる]総合歯科医療クリニック院長
猪　原　　健

抄　録

舌接触補助床(PAP)は、脳卒中後遺症による舌運動障害や、舌がん術後による舌の可動域制限で起こってしまう障害に対するリハビリテーション装具である。これは、義歯あるいは口蓋床の口蓋部を肥厚させ、舌の口蓋への接触を与えることで、咀嚼・発音・嚥下などの口腔機能改善を図ることを目的としている。本邦においては、2010 年に保険収載されたが、未だ広く普及しているとは言い難い。

PAP は、口腔内において、舌と口蓋の接触を補助するものであるため、直接的には嚥下運動における口腔期、つまり口腔から咽頭への移送をサポートする。ただ、それだけではなく、嚥下反射の惹起を早める効果や、咽頭残留を減らす効果が認められる場合があり、症例によっては有効性が高い。しかしながら、調整をうまく行えないと、逆に嚥下しづらくなることもあり、ある程度の経験が必要である。

本セミナーでは、PAP の具体的な製作法や調整方法、さらに保険算定について解説を行う。本セミナーが、受講者のみなさんの日常診療の一助となることを願う。

【学会活動】

日本在宅医療連合学会　理事、保険委員会・多職種委員会
日本顎顔面補綴学会　評議員、地域医療支援委員会・広報委員会
日本老年歯科医学会　評議員、社会保険委員会
全国在宅療養支援歯科診療所連絡会　理事
小児在宅歯科医療研究会　世話人　など

— 日歯生涯研修事業ICカードをお忘れなく —